B．屋内緑化コンクール　**緑の取組み部門**

日本インドアグリーン協会理事長賞

手づくり建築工作舎

（受付番号 B-11）

（フリガナ）	オウチショクブツエンプロジェクト
取組名称	おうち植物園 PJ　-植物と光環境の関係可視化による団地緑化の試み-
所在地	東京都北区赤羽台
応募施設	1 公共　2 学校　3 病院　4 老健　5 事務所　6 商業　(7) 集合住宅　8 その他
取組期間	2024 年　4 月　1 日　～

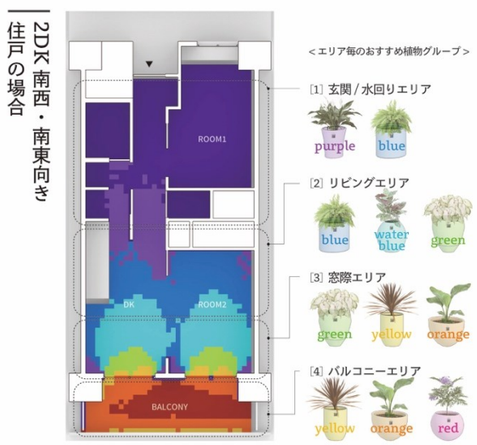
○取組の概要

独立行政法人都市再生機構（ＵＲ都市機構）主催のまちとくらしのトライアルコンペにて選定され実施した、団地住戸の緑化推進のための一連の取り組みです。

観葉植物を家に置きたいというニーズは依然高いものの、その種類の多さから、初心者が自力で樹種を選定して購入に踏み切るにはハードルが高いと感じていました。そこで購入のきっかけとなるように、植物と光環境の関係を色によって直感的に判別できるデザインを考案し、様々な企画を通じて認知を広げています。これまで難しかった団地専有部内の環境改善に、緑を通じてアプローチする試みです。

○取組のシステム

緑化技研/藤田氏がまとめてこられた植物の耐陰性に関する研究をベースに、個々の植物に必要な光の量を、植木鉢の色で直感的に判別できるデザインとしています。また団地内の典型的な住戸プランに対して光環境解析を実施し、植木鉢の色とリンクした結果画像を作成しました。利用者は自宅の植物を置きたい場所を想定することで、植木鉢の色を頼りに好みの植物を選定することができます。



○取組の具体的活動内容

上記のシステムを基幹に、1 年をかけて様々な企画を行いながら認知を広げてきました。

① 併設のミュージアムへの 100 種類超の植物の展示

② 植木鉢塗装と植物植え付けＷＳの実施による企画のＰＲとコミュニケーションの実施

③ 同ミュージアムの保有する保存棟（文化財登録）の一室に緑化モデルルームを整備

特にモデルルームについては、通常の植物販売店舗と異なり、住環境の中で緑を見ることで、その効果やサイズ感、置きたいエリアに適した植物を知ることができる等、大きな反響を頂きました。

② ワークショップの実施

③ 緑化モデルルームの整備

○取組の波及効果

2025 年度はこれまでの活動で得た住民の声を反映し、現地販売会を年 4 回実施予定です。販売方法についても大田市場から直送にて仕入れを行い、売れ残りはミュージアムエントランスにて展示することで、常に樹種を入れ替えながら界隈を緑化できる方式としました。

先日実施した第 1 回の販売会では、初回にも関わらず 200 人以上に来場頂き、50 組以上にご購入頂きました。今後は販売と合わせて住戸内で緑視率 10%を達成できる緑の配置の検証や、効果的な屋内緑化の方法をセミナー形式で広めるなど、より具体的に住環境改善の取組を実施予定です。

現地販売会全景 / モデルルームを行き来しながら植物を選べる

当日の様子/テーブルの色でコミュニケーションを取りながら販売

○その他（今後の展望）

本システムは団地に限らず、戸建てや集合住宅、オフィス、商業施設など、様々な場所で実施可能な汎用性を持っています。カラフルな色の植木鉢と共に植物を展示することで場所の賑わい創出ができると共に、訪れた方々に少しずつ個々の植物に対する認知を広げることが可能です。昨今の群としての都市緑化からはなかなか得られない、自宅に植物を招くきっかけとなる試みとして、取り組みの輪を広げたいと考えています。